

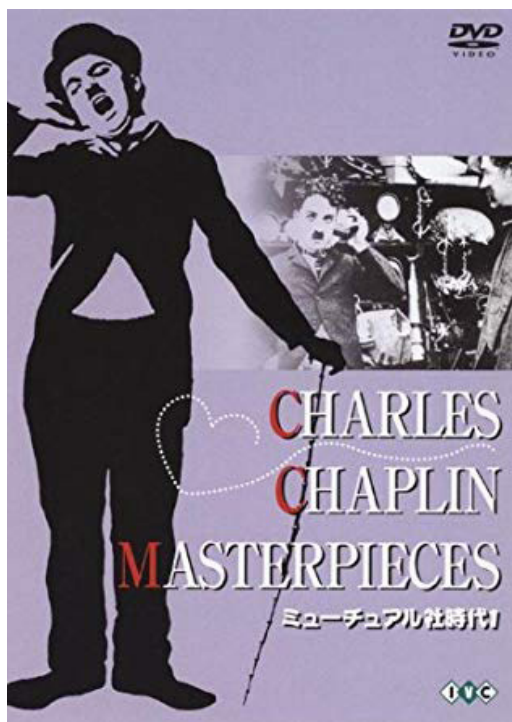
2019.2.21

vol.73

# シネマ・ド・リぶらの コラム・ド・シネマ

映画  
を  
読む

## 本日の上映作品『チャップリン ミューチュアル社時代1』



三度移籍した先は、ハリウッド史上空前のギャラで招かれたミューチュアル社。俳優としてのキャラクターを練り上げ、原案・脚色・監督の全権を任されて、完成度の高い驚異の天才芸を發揮する。「チャップリンの替玉」「チャップリンの消防夫」「チャップリンの放浪者」「午前一時」「チャップリンの伯爵」「チャップリンの番頭」の6作品を収録。これらの作品から、後の長編の名場面に結晶してゆく原点が垣間見える。

監督：チャールズ・チャップリン  
 出演：チャールズ・チャップリン  
 製作：1916年 アメリカ  
 モノクロ 126分

『ハリウッド「赤狩り」との闘い』 『ローマの休日』とチャップリン	吉村 英夫／著	大月書店	778.253
『ようこそ、映画館へ』	ロバート・クーヴァー／著	作品社	933.7
『チャップリンとヒトラー』 メディアとイメージの世界大戦	大野 裕之／著	宝岩波書店	778.253
『チャップリンを観る』そして『ローマの休日』へ	吉村 英夫／[述]	草の根出版会	778.233
『チャップリン・未公開 NG フィルムの全貌』	大野 裕之／著	日本放送出版協会	778.233
『映画放浪記』大人の映画館	色川 武大／著	キネマ旬報社	778.04
『喜劇の王様チャールズ・チャップリン』		近代映画社	778.233
『チャップリン自伝若き日々』	チャップリン／[著]	新潮社	778.233
『チャップリン再入門』	大野 裕之／著	日本放送出版協会	778.233
『チャップリンのために』	淀川 長治／[ほか]著	とつても便利出版部	778.233
『チャップリン』	江藤 文夫／著	岩波書店	778.233
『チャップリン』上・下	デイヴィッド・ロビンソン／著	文芸春秋	778.233

## コラム『チャップリン ミューチュアル社時代1』

### 映画の天才・チャップリンの若き日の短編集 K.M.

1916年、既にバスター・キートンやハロルド・ロイドと並び、「世界の三大喜劇王」と認められていたチャップリンは、年額67万ドル（当時のアメリカ大統領の年俸の7倍）という破格の契約金で、ハリウッドのミューチュアル社に招かれます。ここで彼は製作の自由を与えられ、よりよい環境とスタッフ（兄シドニーがマネージャー）の下、12本の傑作を製作。アメリカのみならずイギリス・フランス・日本など、世界各国に配給され、高い人気を得ました。後にチャップリンは「ミューチュアルで働いていた頃が、一番幸福な時期だったかもしれない」と語っていたそうです。

今回上映は12作の内、前半の6作です。なにしろ約100年前の無声映画（しかも活弁士なし）ですので、少々内容が掴みにくいかもしれませんが、気楽にご覧ください。

#### (1)『チャップリンの替玉』

百貨店の客チャーリーが、万引き犯に間違われて大騒動となるドタバタ喜劇。冒頭チャーリーに似た人物が出てくるが、副店長で、いわば替玉。本物は約3分後、客として登場する。エスカレーターという大掛かりな仕掛けを使ったギャグとチャーリーの飛び跳ねまわるアクションが見所。

#### (2)『チャップリンの消防士』

消防士のチャーリーがかねてから好意を抱いていた娘を、火事（実は保険金目当ての放火）の家の階上から救出し結ばれるというお話。見所はチャーリーがビルの外壁を一目散によじ登るシーン（代役なし）。

#### (3)『チャップリンの放浪者』

チャーリーは流しのバイオリン弾き。ジプシーに誘拐され虐待されている娘を救い、淡い恋心を抱くが、彼女は偶然出会ったイケメン画家に夢中。やがて画家が彼女をモデルに描いた絵が街で評判となり、彼女が貴婦人の娘であることが判明し・・・というお話。ドタバタが少なく、ドラマ性の進

化が感じられる傑作です。娘を迎えに来た母親が、チャーリーに金を渡そうとするがチャーリーは母親の手を払い、娘に両手を差し伸べて抱きしめる。このシーン以降、チャーリーはドタバタ中心の作品と恰好は同じでも、別の人格のようなやさしさに満ち溢れた表情と演技を見せます。チャップリンは左利き？彼のヴァイオリンの扱いに注目。

#### (4)『午前一時』

冒頭、タクシーの運転手役が少し登場する以外、最後までチャーリーの独り芝居。巨大な時計の振り子・回転テーブル・ボタンを押すと飛び出るベッドなど、小道具やセットが相手役。酔っ払って家に帰ってきた金持ちチャーリーが、寝室に行くまでに、様々な家具どもに行く手を阻まれる様子を、流麗なパントマイムの至芸で見せてくれる。

#### (5)『チャップリンの伯爵』

チャーリーは洋服の仕立て屋の見習い。仕立て屋の主人とチャーリーが、上流階級のパーティーに招待された伯爵とその御付に成りすましてパーティーに潜り込み、パーティを大混乱に陥れるお話。チャーリーのダンスシーンは流石。驚きは、晩餐会で出てくる西瓜が輪切り！。

#### (6)『チャップリンの番頭』：

チャーリーは質屋の店員。遅刻の常習者で、他の店員や客と面倒を起こしてばかりの彼だが、店主の娘に気に入られ、何とかクビは繋がっている。質屋を舞台にしたギャグの内、最高の見どころは客が質草に持ってきた目覚まし時計を、チャーリーが検品とばかりにバラバラに分解してしまうシーン。ここでチャーリーがパントマイムの妙を見せる。まず人間に対するように聴診器をあてる。次は裏ブタを缶詰のように開けて匂いを嗅ぐ。ゼンマイを引っ張り出す。目覚まし時計という1つの小道具がチャーリーの手によって何種類もの別の存在に変わっていくのは見事。しまいには、バラバラにした部品が動き出す（アラームをセットしていた時間になったという意味だろう）というシュールなギャグでおしまい。

## 1/17 『私の頭の中の消しゴム』の感想

※機材の不調で字幕がスクリーンに表示されず、  
上映開始前のアナウンスでご了承いただき、  
日本語の吹替えで上映することになりました。

- ・半年前に、知人の奥様がアルツハイマーで亡くなりました。こうしたことは私の周囲であることで、他人事は思えません。2～3人のアルツハイマーの方の話を聞いたことがあります。家族の方やその周りの方のご苦労をお察し申し上げます。
- ・人間の頭脳の精密さも極めてあやういものであることを実感するとともに、改めて今の自分に感謝したい気持ちです。非常に心にひびく映画でした。
- ・映画としてはよくできていると思いました。2005年の韓国映画ですか。日本語吹替えで認知症という言葉が使われていましたが、日本でも1900年代は痴呆症と言われていたはず。映画としては感動しましたが、映画というものはそういうものですが、生活感というか現実味という面から少し違うかなと思いました。
- ・新しい感覚の映画で、こういうのもいいな～と思いました。
- ・この映画を観たのは、2回目ですが、また泣けました。なるべくアルツハイマーにはなりたくないなと思います。
- ・全体のマッチングがよかった。私も主人に言われてみたい。
- ・14年振りに映画を観ることができて感動しました。ありがとうございました。

- ・とてもすばらしかったです。ひさしぶりに来てとてもよかったです。
- ・感動しました。何と言っていいか、言葉になりませんが。
- ・とてもよかった。画面もきれいだったし、吹替えだったので、字を追わないでゆっくり鑑賞できました。
- ・今日の映画はたいへんよかったです。声の吹替えがよかった。
- ・愛のかたちって色々あるんですね。泣けました。他人事ではなく身につまされました。どんな時にも愛を忘れたくありません。
- ・無骨な青年とひたむきな女性の愛。感動をありがとうございました。
- ・とてもよい映画でした。韓国の若者らしくない汚れた仕事の男性で、女性も打算もなく純心な愛でよかった。
- ・ありがとうございました。二人の素晴らしい愛にとても感動しました。記憶がなくなっても愛は残るのだと思いました。
- ・よい映画ありがとう。アルツハイマーの人とのつきあい方、大変ですね。これからもよい映画をお願いします。
- ・不治の病を主題にした映画は「救い」がなくて、ひたすら悲しいです。
- ・愛する人の記憶がなくなっていくのは哀しいですね。
- ・大変よかった。泣けました。
- ・素晴らしい映画をありがとう！大変感動しました。

**注意**



上映中の携帯操作は、周りの方の迷惑になりますのでご遠慮下さい。  
また、観賞マナーを守り、終了後も明るくなるまで席を立たないよう  
お願いします。上映開始時間を過ぎての入場は、ご遠慮ください。

### サロン・ド・シネマについて

ホールホワイエにて寄付金でお茶菓子の提供をしています。映画の上映前にご利用ください。但し、「夜の部」には開催しません。

りぶらホールにはヒアリング  
ループが設置されています。  
補聴器を利用されている方は、  
Tモードに切り替えてください。

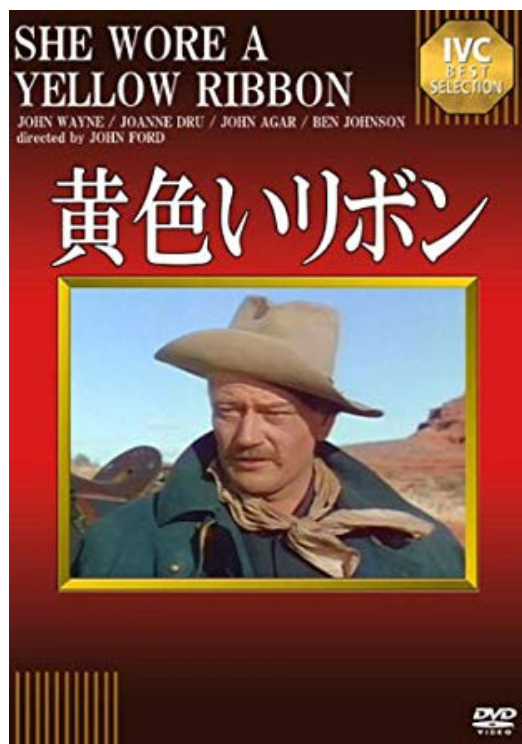


## 第74回上映会のご案内

### 黄色いリボン

字幕上映

SHE WORE A YELLOW RIBBON



4月18日(木)

① 10:30 ~ ② 14:00 ~ ③ 18:30 ~

退役を間近に控えた騎兵隊の大尉ネイサンは、隊長の妻と姪を護送する任務を仰せつかった。しかし彼らの隊は、インディアンの大軍に行く手を阻まれ、岩に舞い戻ることを余儀なくされる。そしてネイサンの任期は切れ、彼は仕事に未練を残しつつも、志半ばで退役。だが、彼の退役を記念して贈られた時計が、任期の期限までまだ4時間ほど残されていることを告げる。ネイサンは、集結しつつあるインディアンを、4時間という限られた時間の中で追い払おうとするが……。

監督：ジョン・フォード

出演：ジョン・ウェイン、ジョーン・ドルー  
ジョン・エイガー、ベン・ジョンソン

製作：1949年 アメリカ カラー 103分

### 2019年度の上映のご案内 (上映作品は変更になる場合があります。)

2020年1月～3月ホール改修工事のため、2019年度の上映会は下記の通りとなります。

第74回	4月18日(木)	『黄色いリボン』	① 10:30 ~	② 14:00 ~	③ 18:30 ~
第75回	5月16日(木)	『素晴しき放浪者』	① 10:30 ~	② 14:00 ~	③ 18:30 ~
第76回	6月20日(木)	『黄金の腕』	① 10:30 ~	② 14:00 ~	③ 18:30 ~
第77回	7月18日(木)	『ゴリオ爺さん』	① 10:30 ~	② 14:00 ~	③ 18:30 ~
第78回	8月22日(木)	『ティファニーで朝食を』	① 10:30 ~	② 14:00 ~	③ 18:30 ~
第79回	9月19日(木)	『自由を我等に』	① 10:30 ~	② 14:00 ~	③ 18:30 ~
第80回	10月17日(木)	『終着駅』	① 10:30 ~	② 14:00 ~	③ 18:30 ~
第81回	11月28日(木)	『キリマンジャロの雪』	① 10:30 ~	② 14:00 ~	③ 18:30 ~
第82回	12月19日(木)	『ビューティフルメモリー』	① 10:30 ~	② 14:00 ~	③ 18:30 ~